

3月15日 静岡県東部の地震

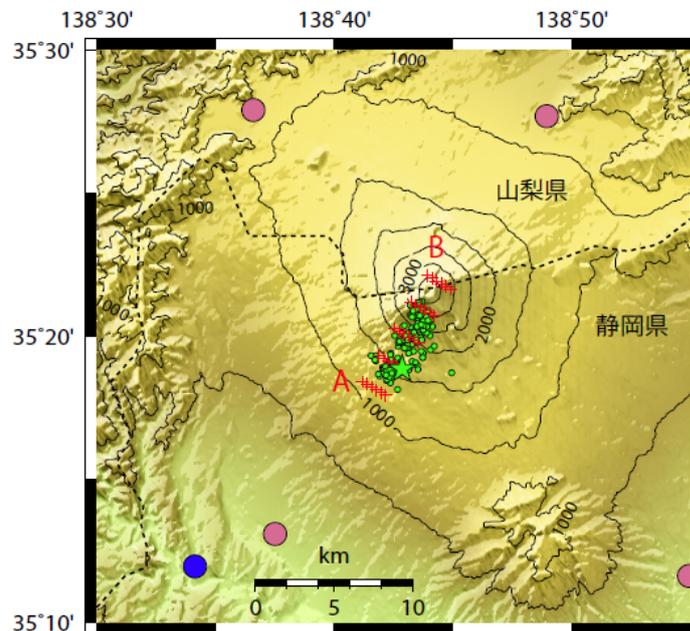
一 近地強震波形による震源過程解析（暫定）一

2011年3月15日22時31分に静岡県東部で発生した $M_{JMA}6.4$ の地震について、国立研究開発法人防災科学技術研究所が展開する強震観測網（以下、K-NET）、基盤強震観測網（以下、KiK-net）の観測点の強震波形を用いて震源過程解析を行った。

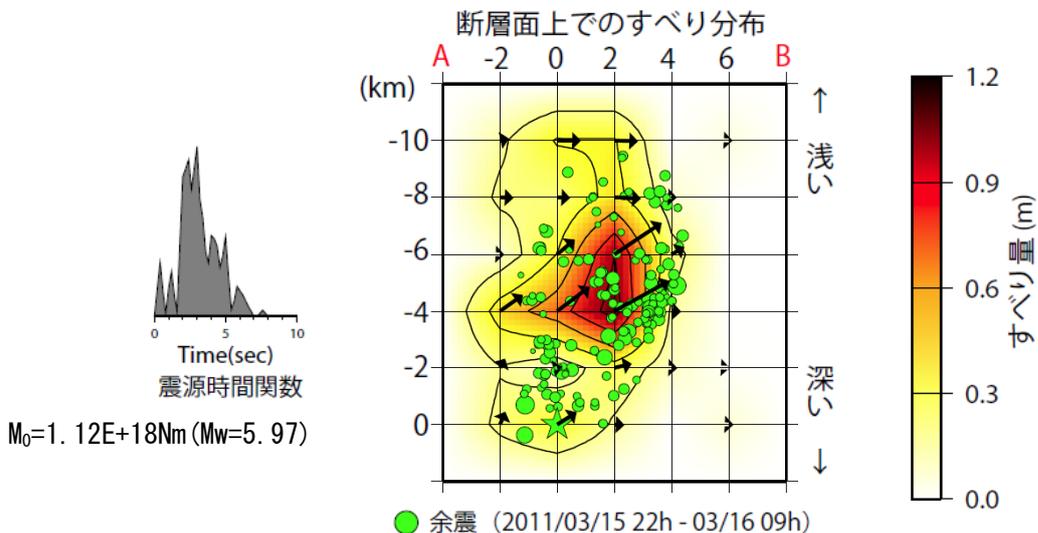
破壊開始点はDD法を用いて再決定した本震の震源位置（N35.3145°，E138.7143°，深さ15km）とした。断層面のパラメータは、DD法を用いて再決定した余震分布を参考に走向31°，傾斜80°とし、すべり角はCMT解（暫定解）によるすべり角42°の片側45°の幅に収める拘束条件を与えた。

主な結果は以下のとおり。

- ・ 主なすべりは初期破壊開始点より浅い部分にあり，主な破壊継続時間は約5秒間であった。
- ・ 断層の大きさは長さ約6km，幅約10km（最大破壊伝播速度を2.0km/sと仮定した場合），最大のすべり量は1.1mであった。
- ・ モーメントマグニチュードは6.0であった。



- ★ 初期破壊開始点の位置
- 観測点 (K-net)
- 観測点 (KiK-NET)
- +
- +
 すべり量を求めるための各グリッド位置



解析には国立研究開発法人防災科学技術研究所の K-NET・KiK-net の波形データを使用した。記して感謝します。

※ この解析結果は暫定であり，今後更新する可能性がある。

観測波形（黒：0.05-0.2Hz）と理論波形（赤）の比較

